

「群馬県経済の特徴」と「群馬県企業の強み」

日本銀行前橋支店

支店長 岡山 和裕



本書は「ぐんま経済ガイドブック」というタイトルで、「群馬の企業がわかる！」と銘打っている。このため、「群馬県経済の特徴」と「群馬県企業の強み」について、記したい。

まず、「群馬県経済の特徴」について。群馬県経済の特徴は何と言っても、第2次産業の強さだろう。県内総生産を産業別にみると、第2次産業のウエイトは、全国が26%であるのに対して、群馬県は41%。群馬県経済は製造業がリードしているのは事実。

もともと、群馬県経済は第2次産業だけでない。第1次産業も、第3次産業も盛んなのだ。第1次産業については、さすがに漁業は殆んどないが、農業は全国1位の農産物がたくさんある。こんにゃく、キャベツは有名だが、夏秋ナス、珍しいところでは、モロヘイヤも全国1位だ。加えて、第3次産業も、群馬県発祥で全国展開している企業が多いのだ。このように第2次だけでなく、第1次、第3次も栄えていることが、様々なシナジーを産んでいるのだ。

さらには、第2次産業も輸送用機械が有名だが、それだけではない。調べてみると、県民一人当たり製造品出荷額で全国10位以内に入る業種が、輸送用機械に加えて、業務用機械、プラスチック製品、食料品など、何と9業種もあるのだ。この9業種という数は、全国でも7番目に高い順位になっている。

このように幅広くて深みのある産業構造が群馬県経済の経済成長率を支えているのだ。

では、このような群馬県経済の特徴は、どのような企業によって産み出されているのか。「群馬県企業の強み」について、見てみたい。

まずは、外部環境としては、交通インフラが整備されている、地震や異常気象などの自然災害が少ないということが挙げられる。また、群馬県は交通の要所であり、首都圏、信州、越後などの企業や工場などとのアクセスが良いのだ。

では、それだけであろうか。私が見る限り、オープンで、おせっかい好きで、新し物好きの県民性が大きく寄与しているように思える。というのは、オープンなので、日本国内だけでなく海外の情報への感応度が高い。また、おせっかい好きということが、同じ業種の中での情報交換や産官学金の連携の強さを後押ししている。加えて、新し物好きが、新しいビジネスへのチャレンジに繋がっているのだ。事業内容が創業時と今とで大きく変わっている企業が、群馬県には多いことからもお分かりだろう。

こうした群馬県企業の前向きな取り組みによって、今の厳しい経済情勢の中でも、何とか群馬県経済を盛り上げていって欲しいと、強く願う。